

第4回学校運営協議会議事録

【開催事項】

- 1 開催日時 令和5年2月25日(土) 14:45～15:45
- 2 場 所 視聴覚室
- 3 出席者 学校運営協議会委員 7名
学校職員 23名

【次第】

開会 副校長より

1 【本日の予定の説明】

2 【各部会】

生徒支援・外国支援部会

キャリア支援部会

授業開発環境整備部会

3 【学校運営協議会】

(1) 校長より

入学者選抜について、本校通信制の志願者が大幅に増加しました。新聞報道等でもあるよう多様な学びの形として通信制を志願する受検者が次年度も増加するのではないかと考えています。また、今年度の卒業生数は、ほぼ前年度と変わらない人数です。マスクの着用について、卒業生は自己判断となり、保護者や教職員は感染対策のため協力要請という形で、来賓の参列はご遠慮願ひ、卒業式を実施します。

1年を振り返り、コロナ禍でも行事を実施することができ、教育的な効果があったと実感しています。通信制において、前期と後期で単位取得者が増加したのは、この行事の影響が少なからずあったものといえます。遠足や文化祭等で仲間づくりをし、教員との関わりを持ち、人間関係が深まったものといえます。学校行事は次年度も活発に実施していきたいと思ひます。

課題としては、三課程のフレキシブルスクールとして柔軟で多様な学びのシステムを推し進めていくことです。この学びのシステムが最終的に生徒の進路実現につながる形として実現していきたいと考えています。

(2) 各部会から報告

【生徒支援・外国支援部会】

全日制のマナー向上の課題、定時制の教育相談体制、通信制のこころサポート事業について主に議論しました。教育相談コーディネーターがよく機能しており、今後も三課程ある高等学校として課題を共有し、可視化して取り組んでいってほしい。

【キャリア支援部会】

課題として、本校の生徒たちが困っている点を職員が把握し、それぞれの課程で進路指導を工夫して行う必要がある。卒業後、漠然と進学・就職をするのではなく、その決定に至るプロセスを生徒に伝えるようにしてほしい。

【授業開発環境整備部会】

授業研究を実施してどのような意見が出たか、各研修の内容、通信制のデータ化について、ご質問があり、各課程でお答えした。

1人1台端末導入の1年目であり、今年度出てきた課題等を改善し、次年度に向け活かしてもらい、この取り組みをよりよい形で継続してもらいたい。

(3) 指導助言

【委員】教育課程・学習活動について、11月に実施した全日制の研究授業の内容・研修の場を定時制・通信制の職員へ提供したことは共に学び合う良い機会となり、それぞれの職員のヒントになっている。他校では体験することができない強みであり、今後も活かしてもらいたい。新学習指導要領についても今年度の課題を次年度へ活かし、三課程で取り組む学校づくりをしてもらいたい。

【委員】SDGsの学習活動は今年度で終わることなく、次年度も引き続き実施してもらいたい。

【委員】主体的に学ぶことの徹底をお願いしたい。生徒が学校に通う理由や通いたくなるのは学校行事の影響がある。とくに、外国につながるのがある生徒たちにとって、日本語が不十分でインプットの機会が非常に多い。しかし、この生徒たちにとってはアウトプットする機会が必要であるため、そのような機会を活かしてもらいたい。高校での日本語教育は各教科の学習につながりがあり、日本の生徒たちと共生できるようお願いしたい。

【委員】生徒たちが授業を楽しんで受けていることができおり、とても安心しました。

【委員】通信制の学生において、学習活動へ自主的に取り組む必要があると感じている。生徒と職員がコミュニケーションをとる手段として、ICT機器を上手く活用してもらいたい。主体的という言葉を聞くと、「生徒が」という形に聞こえてしまうが、生徒が主体的に取り組むことができる環境を学校は創り上げてもらいたい。

【委員】次年度もICTを活用し、円滑に進めてもらいたい。通信制の学生は他の学生とコミュニケーションが難しいと感じていることも多く、充実感や達成感を味わうような授業の展開をお願いしたい。

【委員】生徒指導・支援について、小・中学校で心の面で課題を抱えた生徒に対してSC・SSW・教育相談コーディネーターを中心に支え・フォローする教育相談体制が機能している。教職員の異動があり、人が変化していく中でも可視化し、三課程で共通理解を図り、次年度以降もつなげてもらいたい。

【委員】指導側が抱え込まないことが重要である。生徒対応は多面的に行ってもらいたい。マナー違反についても、なぜ起こっているのかを生徒の側に立った親身な対応をお願いしたい。

【委員】厚木清南は髪型や服装は自由で、学校生活も自由な風潮がある中で厳しい指導を行うことが難しいと感じています。粘り強く生徒へ注視してもらいたい。

【委員】教育相談体制がシステム化され、活用されていることがとてもよいこと。このシステムは生徒第一であるとともに、教職員にとっても良いシステムである。また、学校行事もとても重要で、生徒にとって将来、学校行事等で運営経験があるかどうかで、その後の行動力に大きな差が生まれ、表れてきます。

【委員】学校行事がコロナ禍でも実施できたことは生徒にとって非常に良い経験となったと感じています。次年度以降もぜひ継続してもらいたい。

【委員】通信制、火曜スクーリングの中で生徒の授業を受ける姿勢にも注視してもらいたい。

【委員】進路指導・支援について、生徒一人ひとりが自己実現するには、生徒の主体性ととてもつながりがある。興味関心を持ち、意欲的に取り組むようになるには、その前の段階として、わからない部分がある。そのときに先生や保護者、外部の大人が生徒をサポートする必要がある。大切なのは生徒が安心して話をする環境を作ること。今後も重点的に取り組んでもらいたい。

【委員】地域等との連携・学校管理・学校運営について、社会状況によって進めていくことが難しかったことが想像できる。防災に係る取り組みは話し合いが上手くもてなかったこともあった。厚木市には相模川があり、川の氾濫が起こる想定など気になる部分があります。地域を知っていくことが大切で、厚木清南が一施設、一部分として何ができるかを発信してもらいたい。地域の一部分となっていくことが課題であると考えます。

【委員】改めて三課程と一緒に学校を作っていくことがわかりました。課程ごとの様々な生徒について、情報共有し、議論をすることは全体にとって豊かなこと。生徒が、なぜ学校に行くのか、なぜ学ぶのか、の本質的な問いに迫ることはとても大切なこと。授業時間・勤務時間等の違いで三課程の職員で取り組んでいくことは難しい部分があると思う。無理し過ぎず、持続可能な形で進めていくことに賛同しました。

自分の子どもを安心して送り出せるという言葉、中学校と高等学校との繋がりが見え、この場がとても大切であることに胸が熱くなりました。

(4) 意見申出書

総括教諭の増加

【委員】ぜひとも発信してもらいたい。三課程で工夫している点が組織として充実し、リーダーシップをとれる職員がいることは、三課程が有効的に機能する。人・資源はとても重要である。